

## SDGs 未来都市等の進捗評価に関する都市からの意見と対応方針案

## ① SDGs 未来都市等進捗評価様式（案）への意見

No.	都市からの意見	対応方針案	
1	数値による把握が困難な場合も考えられるため、定性的な記載ができるよう配慮をお願いしたい。	KPIによる適切な達成度の把握が困難な場合には、「進捗状況や課題等」の欄に定性的な記載をできることとする。	
2	達成度の見せ方が難しい指標について、段階的な成果等の達成度が適切に表せるよう、シートの工夫をお願いしたい。		
3	自治体SDGs推進評価・調査検討会（第9回）での意見にもあるように、現状維持を目標としている指標についても適切に表現できるような記載方法としてほしい。	KPIの達成度の計算方法は、基本式以外に、都市独自の計算式を用いてもよいこととする。なお、その際は「達成状況や課題等」欄にその計算式を記載することとする。	
4	1ページ下段の「地方創生・地域活性化への貢献」について、評価の視点を見る限り、無理に「地方創生」という語を入れず「地域経済活性化への貢献」という表現がよいのではないかと。	SDGsが地方創生に資することを明らかにするため、「地方創生・地域活性化への貢献」のままとする。	
5	2ページにある各指標の「達成度」という表現について、特に序盤に想定される「未達成」が多く並んでいるという状況は、「出来が悪い」という印象を与えるのではないかと。「進捗状況」などニュートラルな表現にしてほしい。 また、「達成度」の数字よりも「課題等」についての記述を重視すべきであり、「達成度」と「課題等」の列を入れ替え、「達成度」を補助的な位置付けにしてはどうか。	指標として設定して取り組んでいるものであるため、「達成度」のままとする。取組の序盤において、達成割合が低い場合は、定性的な記載にて補足されたい。 また、本様式は自治体SDGs推進評価・調査委員会が各都市の進捗状況を評価することが主たる目的であることから、列の入れ替えは行わない。	
6	「有識者のコメント」について、取組の進捗状況に関する評価だけでなく、専門的知見からの助言等をいただきたい。	「有識者からの取組に対する評価」欄には、評価に加え、可能な限り専門的知見からの助言等も記載することとする。	
7	記入例をみると、相当量の記載を求められることになる項目があると見受けられますが、十分なスペースを検討していただきたい。	やむを得ない事情により、様式内に記載できない場合には、シートの追加（1頁分を2頁にわたって記載）や参考資料の添付等、柔軟に対応できるものとする。	
8	2シート目の全体計画表は2ページにまたがってもよいかと。 優先的なゴール、ターゲットに関するKPIを記載できるようになっているが、優先KPIが12項目あるため1枚に収まらないと思われる。		
9	優先的なゴール、ターゲットに関するKPIが6以上あるため、行の挿入を行うこととなる。その場合、その部分より下の記入欄のスペースが小さくなり、必要事項が記入できない恐れがあるため、別紙での提出を認めるなど柔軟な対応についてご配慮いただきたい。		
10	各記入欄の記載の補足として、別資料の使用も可能としてはどうか。		
11	各記入欄について、記入欄が小さいため、補足資料の添付を認めていただきたい。		
12	SDGs 未来都市等進捗評価シートに「その他、都市からのアピール」の自由筆記の記入項目を設けてほしい。		各記載欄に該当しない内容を報告する場合には、過大な数量にならない程度に、参考資料を添付できるものとする。

② SDGs 未来都市等進捗評価全般への意見

No.	都市からの意見	対応方針案	
1	自治体SDGsモデル事業に選定されず、SDGs未来都市のみに選定された自治体は、「1. 全体計画」に記入し、「2. モデル事業の進捗」には記入不要という認識でよろしいでしょうか。	自治体SDGsモデル事業に選定されず、SDGs未来都市のみに選定された自治体は、「2. 自治体SDGsモデル事業」（3～4頁）は記載不要とする。ただし、SDGs未来都市計画において、「特に注力する先導的取組」について記載している場合には、「2. 自治体SDGsモデル事業」の各欄についても記載することとする。	
2	モデル事業選定都市の10都市に選定されなかったため、SDGs未来都市計画の中の自治体SDGsモデル事業の項目に、任意で「特に注力する先導的取組」として新規事業を掲載した。しかし、実質的な事業実施は来年度予算によるものが多く、2018年の進捗状況を作成することは困難である。よって2018年の「自治体SDGsモデル事業進捗評価」については、選定された（補助金を受けた）10事業を対象とし、モデル事業選定都市以外は任意としてほしい。		
3	原則として3月末の値を用いて評価するため、評価のタイミングは年に1回、年度頭で前年度末の数値を評価する形としたい。ただし、調査の頻度を高める必要があれば、9月末の値を用いて10月に評価してもよい。		
4	進捗評価については、案のとおり6月以降を希望。		
5	評価の実施時期については、自治体の決算報告が基本的に9月定例議会で行われ、政策評価も同時期に行うことから、それらと合わせて第3四半期以降に設定してほしい。 （国の統計公表時期も第2四半期であるものが多くあり、年度前半では評価できない指標が出てしまう）		
6	進捗評価の実施時期について、KPI等のデータが揃う9月以降を希望する。		
7	進捗評価の実施時期について、環境モデル都市の評価時期と同様に、前年度のKPI等の実績が揃う1月を希望する。		
8	評価のためのKPIの設定については今後も専門家の助言を受けながら検討していくこととしており、公的な統計以外の指標が採用されることもあり得る。ケースによっては市民アンケートの実施などで時間を要する場合など、スケジュールでは6月からの評価作業となっているが、指標値が揃わないケースがあることをご了解いただきたい。		
9	SDGs未来都市計画に掲載したKPI等のデータは、市の各部局に広くまたがっており、直近のデータが出そろいやすい平成32年1～3月頃に進捗評価を実施してほしい。		
10	「自治体によるSDGsの取組の評価の視点」の内容が細かく、進捗評価シートの記載事項で計るのは困難なように思われます。もし、これらの評価点を確認するためにヒアリング時に追加で資料を求めたり質問を御用意されたりする場合は、当方で用意すべき情報を前広に明示していただくと有り難いです。		ヒアリングを行う際には、事前に資料を委員へ送付し、質問事項等を可能な限り都市へ事前通知することとする。
11	自治体によるSDGs推進に向けた取組の全てが短期で目に見える成果がでるとは限らないため、進捗評価に当たっては長期的な視点で評価していただきたい。		本計画が3カ年計画であることから、計画期間内における進捗を明らかにすることを主とする。ただし、3カ年では成果が現れづらい長期的な取組については、「進捗状況や課題等」の欄等で補足的な説明を記載できることとする。
12	書面報告を希望。		進捗評価様式による書面評価を基本とするが、自治体SDGsモデル事業を実施する10都市については、31年度はヒアリングによる評価も実施する。